

『ふしぎだね この道歩くと ほっとする』

～平成23年度「道路ふれあい月間」推進標語
入選作品決定のお知らせ～
道路局 道路交通管理課

◆「道路ふれあい月間」とは◆

国土交通省では、毎年8月を「道路ふれあい月間」として、道路を利用している国民の方々に道路とふれあい、道路の役割や大切さを再認識していただき、道路愛護活動の推進及び道路の正しい利用の啓発を図るとともに、道路を常に広く、美しく、安全に利用する気運を高めることを目的とした運動を実施しています。

◆「道路ふれあい月間」推進標語◆

道路は、国民の日常生活や経済活動に欠くことのできない基本的な施設ですが、あまりにも身近な存在であるため、その重要性が見過されがちです。そこで、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、改めて道路の意義・重要性について考えて頂くことを目的に、平成23年度「道路ふれあい月間」推進標語を広く一般から募集しました。国土交通省ホームページなどで募集を行ったところ、全国各地から5,276作品もの応募がありました。

これを受け、審査懇談会を開催し、審査員による厳正な審査の結果、最優秀賞3作品、優秀賞6作品が決定しました。

◆平成23年度の入選者・作品◆

最優秀賞（3作品）

『ふしぎだね この道歩くと ほっとする』

香川県 田村茉莉花さん 8歳（小学生の部）

選評：ほんとうによいものは、そのどこがよいのかわからないことが多い。それが「ほっ」とさせるのだろう。

『この道で 今日もドラマが 生まれてる』

新潟県 江島千愛さん 13歳（中学生の部）

選評：道は人と人を結びつけるものだから、日々ドラマが生まれる。よいドラマが生まれることを願わずにはいられない今日このごろだ。

『よい事が ありそう今朝の 光る道』

東京都 徳江和雄さん 82歳（一般の部）

選評：道を歩いていてふっと吉兆を感じたその瞬間をとらえた作品。「光る」が効いている。

優秀賞（6作品）

【小学生の部】

『おはようが ひびいてきこえる 山のみち』

大分県 矢野珠真さん 7歳

『道路でね 転んで泣いて 仲直り』

新潟県 小川 藍さん 12歳

【中学生の部】

『こんにちは 道路で交わす 合い言葉』

長崎県 七條怜華さん 14歳

『夕日道 のびる影で 背くらべ』

香川県 渡邊悠子さん 15歳

【一般の部】

『続くだね この道が 未来へ』

新潟県 山本 篤さん 51歳

『風の色 見つけて歩く 四季の道』

東京都 保岡直樹さん 40歳

※発表内容は応募時点

（総合選評）

- ・改めて「道路」は、日々時間を共にしている大事な存在ということが分かります。
小学生のやわらかな視点、中学生の未来への予感、一般部門の暖かさ。全てに人の縁が感じられて、おそらく街町でこの標語を見た方は、まさに「ほっ」とするのではないのでしょうか。
- ・その地に暮らす人々の息吹が伝わる作品が揃いました。小学生の「ほっとする」の言葉からは、家族と地域に守られて生きる姿、中学生になると、「ドラマが生まれる」と大人への入口に立つ期待感が、そして、一般の部では「よい事が」と希望を招く言葉へと展開しています。
それぞれの人生の段階ごとに、人が道路を豊かに育てているようです。

◆審査懇談会の様子◆



【審査員】（敬称略）

- ・上野 誠（奈良大学文学部教授、国文学者）
- ・三好礼子（エッセイスト、国際ラリースト）
- ・吉岡耀子（交通・環境ジャーナリスト）